

藤保第1302-6号
令和4年9月30日

関係機関 各位

大阪府藤井寺保健所長

藤井寺保健所管内における感染症情報（令和4年9月号）について（情報提供）

日頃から、当保健所業務に御協力いただき、お礼申し上げます。
標記について、別添のとおり情報提供いたします。

担当課：大阪府藤井寺保健所 地域保健課 感染症チーム
担当：河本、裏
TEL：072-955-4181
FAX：072-939-6479

感染症情報提供（8月新登録結核） 令和4年9月号

大阪府藤井寺保健所 地域保健課
〒583-0024 藤井寺市藤井寺1-8-36
TEL：072-955-4181 FAX:072-939-6479

★結核と診断した医師は直ちに保健所に届出をお願いします★

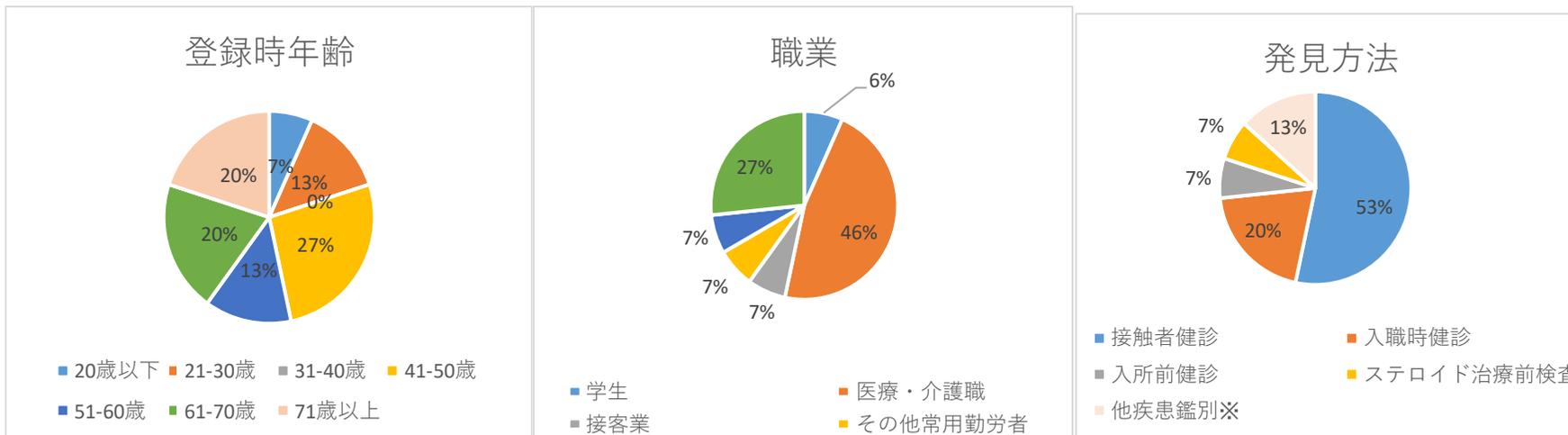
事例	1	2	3
診断名	結核性胸膜炎	肺結核 結核性胸膜炎	肺結核 粟粒結核
年齢	80歳代	70歳代	70歳代
性別	男	男	男
居住地域	柏原市	羽曳野市	松原市
職業	無職	無職	無職
発見方法	有症状時受診	他疾患術前検査	有症状時受診
診断根拠	喀痰塗抹（-） 胸水 ADA 高値、胸水 TB-PCR（+）	喀痰塗抹（-） TB-PCR（+）	喀痰塗抹（-）画像所見 TB-TRC（-） IGRA（-）
初診医療機関	一般医療機関	一般医療機関	一般医療機関
診断医療機関	専門医療機関	専門医療機関	専門医療機関
受診医療機関数	2	2	2
発見時の症状	なし	なし	発熱、倦怠感、咳嗽
発病～初診	3か月28日	0日	1日
初診～診断	4日	26日	1日
診断までの経緯	令和4年4月頃からアルブミン、Hb低下あり、6月頃から食欲不振、体重減少、ADL低下、7月21日から咳症状あり、施設入所前精密検査にて7月28日医療機関入院となる。胸部X線、CT画像上左胸水認め胸水穿刺でADA76.3、胸水PCR-TB（+）で結核性胸膜炎診断。	令和4年7月心臓のバイパス手術の術前検査で画像上胸水貯留認め肺癌疑いで専門医療機関他科紹介受診。8月3日TB-PCR（+）で結核疑いとなり、同医療機関の専門科を紹介され胸水ADA51にて肺結核、結核性胸膜炎診断。	サービス付き高齢者住宅入所中。8月16日発熱、倦怠感、咳嗽出現しSP0 ₂ 低下し管内医療機関に救急搬送され、COV-19検査陰性。画像所見上右下肺野浸潤影、両肺野に多発結節を認め粟粒結核疑い専門医療機関に転院。CT所見より肺結核、粟粒結核診断。
事例の特徴	受診の遅れあり	他疾患術前検査で発見	施設入所中

事例	4	5
診断名	肺結核	肺結核 粟粒結核
年齢	80 歳代	70 歳代
性別	女	女
居住地域	藤井寺市	松原市
職業	無職	無職
発見方法	施設の定期健診	有症状時受診
診断根拠	喀痰塗抹 (-) 画像所見	喀痰塗抹 (+) 画像所見 T B-PCR (+)
初診医療機関	一般健康診断	一般医療機関
診断医療機関	専門医療機関	一般医療機関
受診医療機関数	3	2
発見時の症状	食欲低下、体重減少	食欲不振、倦怠感、発熱、頭痛
発病～初診	3 か月 2 3 日	2 8 日
初診～診断	7 日	2 日
診断までの経緯	特別養護老人ホーム入所中。令和 4 年 5 月より食欲低下、体重減少あり。7 月の施設の健診として医療機関で撮影した胸部 X 線で要精密検査となる。8 月 2 3 日他医療機関受診し、胸部 CT 画像上肺癌または肺結核疑いとなり専門医療機関紹介受診。8 月 3 0 日専門医療機関で CT 所見上肺結核診断。	令和 4 年 8 月より食欲不振、倦怠感、体重減少あり。8 月 2 9 日に発熱、頭痛あり救急要請。医療機関受診入院となる。同日胸部 CT 画像上両上肺野粒状陰影あり、左上肺野空洞病変あり、喀痰塗抹陽性となり肺結核、粟粒結核診断され、専門医療機関転院となった。
事例の特徴	受診の遅れあり、施設入所中	

藤井寺保健所管内 潜在性結核感染症 (latent tuberculosis infection; LTBI) の登録状況について

LTBIにおいては、「結核の無症状病原体保有者と診断し、かつ、結核医療を必要とすると認められた場合」感染症法に基づく結核の届出基準として明記されています。

令和3年は15名(男性9名 女性6名)の新規登録がありました。内訳は以下のとおりです



過去5年間の藤井寺保健所管内新登録者数



※2018年の件数のうち22件は管内発生の集団感染事例による

令和3年の新規登録者について

職業別では医療職や介護職が多くを占めていました。医療機関の入職時にはIGRA検査もご検討いただき、年1回は胸部X線検査で異常がないか確認してください。

発見方法では入職時健診での発見が多く、ステロイド治療前の検査での発見もみられました。昨年度の登録者の中には、免疫抑制剤投与中に肺結核を発症し、排菌していたケースもあり、抗がん剤治療や免疫抑制剤投与前など結核の発病リスクの高い患者にはIGRA検査を行うことをご検討ください。また、陽性の場合にはLTBIの治療をご検討ください。